

聖なる国

キー・ヴァース「あなたがたは、わたしの祭司の王国、わたしの聖なる国民となる。これが、あなたがイスラエルの人々に伝えなければならないメッセージです。」

出エジプト記19:6

厳選された聖典

出エジプト記18:12-27、19:1-14

イスラエル民族は、神の約束と律法の指示に基づいて建国された。神の約束に示された神の計画に失敗はありえないが、その計画におけるイスラエル民族の地位、そして他のすべての民族の地位は、神の御心に従うことが条件である。私たちのキー・ヴァースは、イスラエルの民が他のすべての国々から分離されることを指摘している。

モーセの義父であるエテロが、偉大な律法学者に今日のレッスンの第一節にあるような時宜を得た助言を与えたのは、明らかに神の摂理であった。(出エジプト記18:12-

18)。モーセは勤勉で疲れ知らずの働き手であった。しかし、義父は利害関係のない立場からこの状況を観察し、モーセが彼らのささいな問題をすべて聞き、裁こうとするあまり、いたずらに自分自身を消耗させているだけでなく、民自身にも効率的な奉仕がなされていないことを見抜いていた。この仕事は、一人の人間が適切に処理するにはあまりにも多すぎたのだ。

エテロは、モーセへの忠告に見られるように、明らかに知恵があり、高い義理を重んじる人物であった。エテロは義理の息子に、イスラエルの民のさまざまな人数の上に「有能な人」、すなわち支配者や裁判官を任命するように助言し、その人たちが利己的でも貪欲でもなく、原則を持った人であるようにと戒めた。エテロは、モーセが知っていたに違いないように、不義な主義主張の持ち主は、支配する民の利益よりも自分の利益を追求することを悟っていた。そのような性格の者は、祝福どころか、国にとって呪いとなる。

イスラエルのこれらの "有能な人々" は、モーセの指導の下で民に仕えた。モーセが神から律法を受け取り、それを民に伝えるよう指示されたとき、モーセはこれらの長老、つまり代表者を呼び集めた。モーセは彼らに神の律法の詳細（ ）を教え、彼らがまず民を正しく指導し、次に民を正しく裁くために必要な理解を得られるようにした。

成人したイスラエル人60万人がエジプトを去った。(出エジプト記12:37)。出エジプト記12:37) これは、女性や子供も含めると、おそらく合計100万人以上ということになる。このような大勢に神の律法を教えようとする場合、一個人がどのような問題に直面するかは想像に難くない。印刷物も、ラジオも、テレビも、携帯電話も、インターネットもない時代である。モーセには、シナイ山で神から受け取った律法の必要な詳細を民に伝えるという重要な仕事を任せられる、よく組織化された集団がいたことは確かである。それに対して民は、主が語られたことをすべて実行すると言った。出エジプト記19:8